

高齢化問題と神社との関連性

1年1組 佐々木南緒 1年2組 井上 夏月
1年3組 小西 理玖 1年4組 高木 舞桜
指導者 渡部 陽子 西岡めぐみ 松田 彩 井上 真介

1 課題設定の理由

近年、日本の平均年齢が高くなっていると知り、私たちの住んでいる地域に多く存在する神社も、高齢化により神社の荒廃が進んだり取り壊されたりするなどの影響を受けているのではないかと考え、この課題を設定した。

2 仮説

- (1) 高齢者の割合が高くなったことによって、神社を管理できる人が減り、地方の神社の荒廃が進んでいるのではないか。
- (2) 管理しきれなくなり神社の数が減っているのではないか。

3 研究の方法

- (1) インターネットによる調査
- (2) 文献調査
- (3) 身近な人への聞き取り

4 結果と考察

- (1) インターネットで調べて分かったこと

ア 神社と寺院の違い

- ① 祀っている神の違い。神社は神道で神が祀っており、寺院は仏道で仏が祀っている。

イ 神社について

- ① 文部科学省の資料では、全国に約 85000 の神社があり、登録されていない数万の小神社を含めると、日本各地には 100000 社を超える神社が存在している。
- ② 神社には系統があり、同じ系統の神社は同じ呼び方をされることがある。例えば、神明様には天照大御神が祀られており、総本社は伊勢神宮である。数は、4000 社以上ある。
- ③ 同じ系統の神社は多いもので 7000 社以上ある。
- ④ 人気の神や神社がいくつもの神社に分霊され、分社として存在しているものもある。
- ⑤ この分社は同じ名前神社が多く存在していることにも繋がりがある。

ウ 神社の取り壊しについて

- ① 神社が取り壊されることは現在はあまりない。
- ② 明治時代の神仏分離によって多くの神社が取り壊された。

エ 和霊神社について

- ① 昭和 25 年に空襲で焼失したが、昭和 32 年に再建された。
- ② 和霊神社の分霊を祀る神社が、中国四国地方を中心に日本各地にある。

オ 高齢化について

- ① 2014 年までの 40 年間で 65 歳以上の日本人はほぼ 4 倍になり、3300 万人に達した。

- ② 日本社会の人口構成の変化は、他のどの国よりも短期間で起こっている。
 - ③ 原因は、日本の出生率が低いことと平均余命が高いことにある。
- (2) 文献調査で分かったこと
- ア 神社の種類について
 - ① 神社には、大社造や神明造などいくつかの様式があることが分かった。
 - イ 神仏分離について
 - ① 慶応 4 年以前は、神社と寺院は境内や付属地を共有していて、民衆の側からいえば、神と仏は同じように見えていた。しかし、神を仏の化身とする思想が広がり、神道は常に仏教の風下におかれることとなった。
 - ② 神仏分離は明治維新政府が宗教改革として掲げた、最初の政策である。
 - ③ 内容は、神と仏を同じ場所で祀ることを禁止したというもの。
- (3) 身近な人への聞き取りで分かったこと
- ア 地方の神社について
 - ① 少子高齢化が進んでいる地方でも地域で役割や分担を決め、神社の手入れをしていた。

5 まとめと今後の課題

高齢化が進んでいることで神社が減っているという事実はなかった。また、神社の管理についても、各地域で役割を分担し、しっかり手入れされていることが分かった。しかし、訪れる人数には差があった。それには、神社の知名度の高さと、その神社付近にある店や人口密度などの環境の違いが影響しているのではないかと考えた。

また、今後さらに高齢化が進んだとき、今と同じように神社の手入れができるのか、という疑問が生まれた。

今後は、現在と未来を比較することで見えてくる、高齢化問題と神社との関連性について考えていきたい。

参考文献

- ・ 圭室文雄（1977）『神仏分離』株式会社教育社 p.10-15
- ・ 三橋健（2014）『神社と祭り入門』株式会社 KADOKAWA p.30-32, 58,59,66,67
- ・ お寺・神社の基礎知識
<https://www.otera.co.jp/howto/>
- ・ 明治維新の秘話 大寧寺と豊川稲荷-文化大革命としての神仏分離
http://www.taineiji.jp/episod/episod_2.htm